ミノルタ株式会社
ミノルタ販売株式会社

使い方に関する不明な点は、下記住所のフォトアドバイザーがお答えいたします。

サービスセンター

新　宿 〒160-0022 東京都新宿区新宿3-17-5（カワセビル3階）
TEL（03）3356-6281㈹

大　阪 〒530-0001 大阪市北区梅田1-11（大阪駅前第4ビル7階）
TEL（06）6341-6501㈹

名古屋 〒460-0002 名古屋市中区丸の内1-4-12
（アレックスビル4階）
TEL（052）239-1251㈹

広　島 〒730-0041 広島市中区小町3-25
（住金物産広島ビル1階）
TEL（082）247-3978㈹

サービスステーション

札　幌 〒060-0807 札幌市北区北7条西1-1-5（丸増ビルNo.18）
TEL（011）737-1212㈹

仙　台 〒980-0802 仙台市青葉区二日町14-15
（アミ・グランデ二日町ビル3階）
TEL（022）261-3431㈹

横　浜 〒231-0015 横浜市中区尾上町4-47（大和横浜ビル3階）
TEL（045）663-1445㈹

高　松 〒760-0078 高松市今里町1-17-20
TEL（087）835-5568㈹

福　岡 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東3-4-10
（コマパビル1階）
TEL（092）441-6121㈹

営業時間
新宿・大阪　10:00〜18:00（日曜・祝日定休）
その他　9:00〜17:30（土曜・日曜・祝日定休）

9223-2222-71　NI-A004

MINOLTA

ミノルタ ベクティス3000

J 使用説明書

正しく安全にお使いいただくために

この使用説明書では、正しく安全に製品をお使いいただくために、またあなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示を用いています。よく理解して正しく安全にお使いください。

警告 この表示を無視した取り扱いをすると、人が死亡したり、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意 この表示を無視した取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が予想される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は、注意を促す内容があることを告げるものです(左図の場合は発熱注意)。

⚠ 警告

●指定された電池以外は使わないでください。
●電池の極性(+／－)を逆に入れないでください。
●電池を火中へ投入したり、充電、ショート、分解、加熱をしないでください。

電池の液漏れ・発熱・破裂の恐れがあります。

電池を廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁してください。

他の金属と接触すると、発熱・破裂・発火の恐れがあります。お住まいの自治体の規則に従って正しく廃棄するか、リサイクルしてください。

⚠ 警告

製品および電池や付属品を幼児・子供の手の届く範囲に放置しないでください。
幼児が電池を飲み込む等、事故の恐れがあります。万一飲み込んだ場合は、ただちに医師にご相談ください。

落下や損傷により内部が露出した場合は、すみやかに電池を抜き、使用を中止してください。
感電や火傷の恐れがあります。また内部に手を触れないでください。

分解しないでください。
修理や分解が必要な場合は、当社サービスセンター・サービスステーションにご依頼ください。内部の高圧回路に触れると、感電の恐れがあります。

万一、使用中に高熱、焦げ臭い、煙が出るなどの異常を感じたら、すみやかに電池を抜き、使用を中止してください。
放置すると火災や火傷の原因となります。

レンズが前方に伸びた状態で、レンズ部分を持たないでください。
しばらく操作しないでいると、自動的にレンズが収納されます。手を触れていると、手をはさむ恐れがあります。

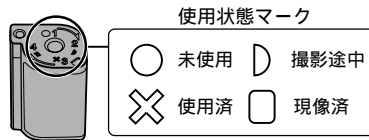
目次

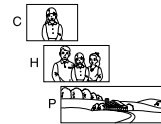
はじめに

お買い上げありがとうございます。
このカメラは、コンパクトなフルカプセルボディに3倍ズームレンズを内蔵した、アドバンストフォトシステム（以下新システム）対応のコンパクトカメラです。二人並びの被写体でもピントが後ろに抜けにくいマルチAF、40cmまで近寄って撮影できるクローズアップ機能を搭載、また近距離撮影時にはファインダーに自動的に補正マークが現れるので手軽にきれいな写真を写すことができます。
カメラを十分に活用していただくために、この使用説明書をご使用前によくお読みください。またお読みになった後は、保証書、アフターサービスのご案内とともに大切に保管してください。

新システムの特長

フィルム装填が簡単になりました

新システムのカメラでは「IX 240 カートリッジフィルム」を使用します。この新フィルムはフィルム部分がすべてカートリッジの中に入っていますから、フィルム室にポンと入れるだけの簡単操作でカメラに装填できます。また、使用状態マークでフィルムの使用状態を一目で見分けることができます。

3種類のプリントタイプが選べます

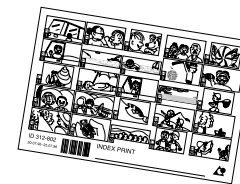
新システムのカメラでは、プリントのタイプをCタイプ、Hタイプ、Pタイプの3つから選べます。また、1本のフィルムの中で自由に切り替えることができます。

新システムのカメラではこんなことができます

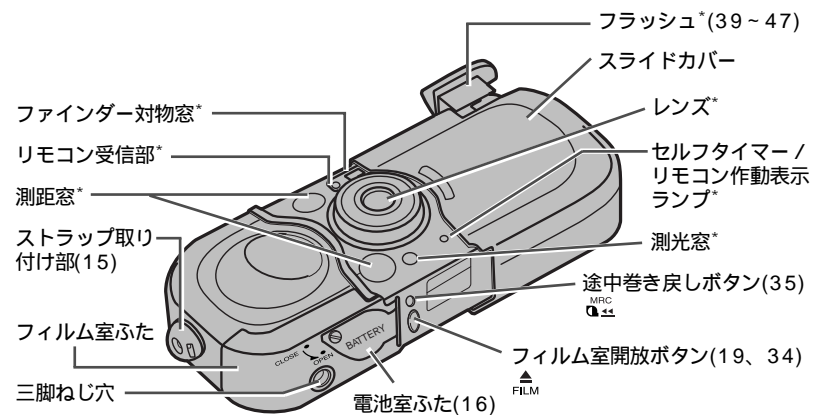
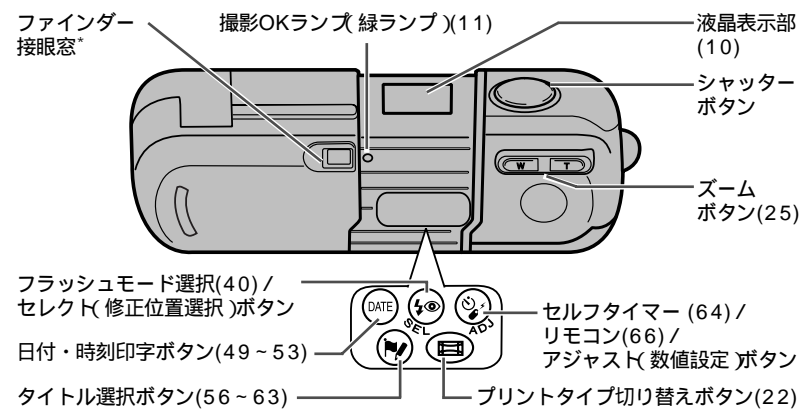
カートリッジ途中交換機能
撮影の途中でいったんフィルムを取り出し、またカメラに入れて、続きから撮影することができます。

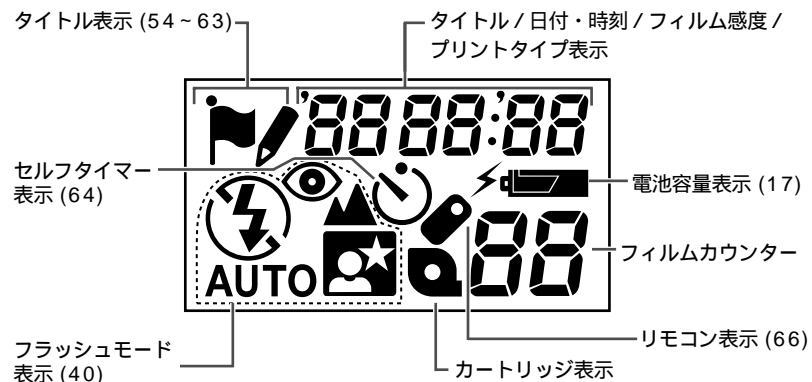
日付・タイトル印字機能
日付や時刻、お客さまが設定されたタイトルをそれぞれのプリントの表裏または裏面に印字することができます。

※ 現像・プリント取扱店によっては、一部機能に対応していないところもあります。

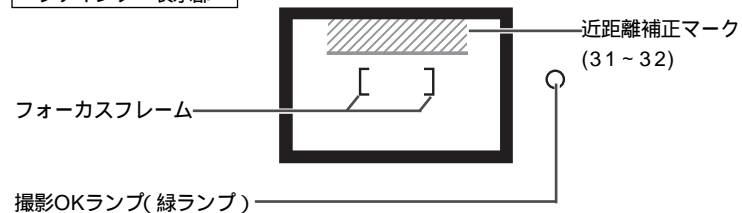
現像・焼き増しも簡単です

お店に現像･プリントを依頼されると、フィルムはカートリッジに入った状態で、インデックスプリント（1本のフィルム内のすべての写真を、まとめて1枚にプリントしたもの）といっしょに返却されます。
このインデックスプリントを見れば、撮った写真を一目で確認でき、焼き増ししたいコマの指定も簡単に行えます。

各部の名称

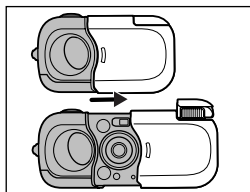
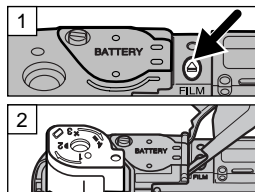
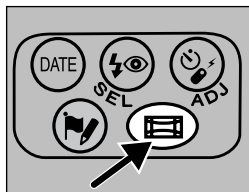
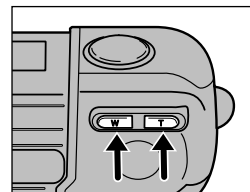
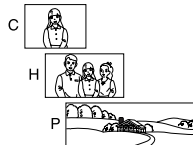
カメラボディ

* 印の付いたところは触らないでください。(　)内の数字は参照ページです。

液晶表示部

※この図では、説明のためすべての表示を点灯させています。

ファインダー表示部

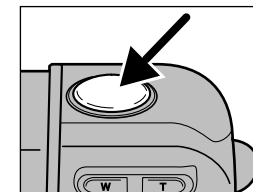
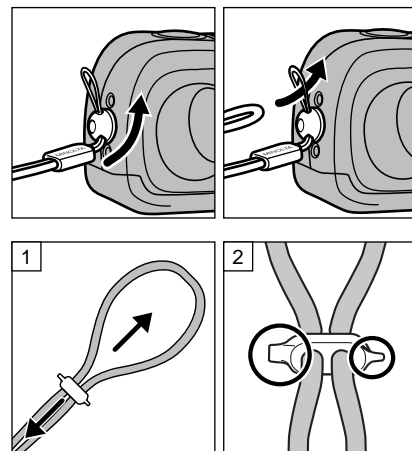
撮影OKランプ（緑ランプ）

シャッターボタンを半押し（25ページ参照）したときに、撮影OKランプは以下のように光ります。

点灯	撮影できます。
すばやく（毎秒8回）点滅	被写体が近すぎます。シャッターは切れません（30）。
点灯しない	フラッシュが充電中です。シャッターは切れません。 点灯するのを待ってから撮影してください。
ゆっくり（毎秒2回）点滅	シャッター速度が遅くなります。 手ぶれに注意して撮影してください（44〜47）。

撮影早分かり（詳しくは本文をご覧ください。）

1. スライドカバーを矢印の方向へゆっくりと、止まるまで開きます。

2. フィルムを入れます。
- フィルム室開放ボタンを押して[1]、フィルムを入れます[2]。
- 使用状態マークが○または D のフィルムをお使いください。

3. プリントタイプを選びます。

4. 撮りたいものの大きさを決めます（ズーム）。

W（広角側）

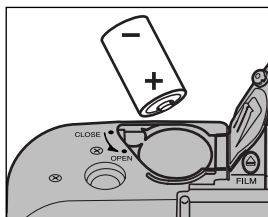
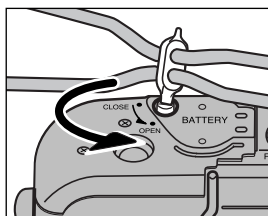
T（望遠側）

5. 撮りたいものに［　］を重ねます。

6. シャッターボタンを押して撮影します。

基本撮影

ストラップを取り付けます

図のようにして、ストラップを取り付けます。

ストラップの持ち手の長さを調節することができます 1。
また、大きい方の突起部分で電池室ふたの開閉が（次ページ参照）、小さい方の突起部分で途中巻き戻しボタンを押すことが（35ページ参照）できます 2。

電池を入れます（お買い上げの際には、電池はすでに入っています）

3Vリチウム電池CR2を１個使用します。

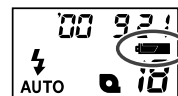
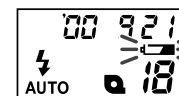
1. カメラを上下逆向けにして、ストラップに付いている大きい方の突起部分で電池室ふたを図のように開けます。

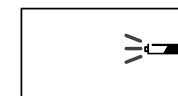
2. 電池室内の＋／— 表示にしたがって電池を入れます。

3. 突起部分で電池室ふたを元通りに閉めます。

- CLOSEのところまできっちりとまわして閉めてください。
- 電池を交換した後や入れ直した後は、液晶表示部に - - - - - - が点滅します。正しい日付・時刻を設定し直してください（50ページ参照）。

電池容量の確認

スライドカバーを開くとカメラの電源が入ります。そのときに自動的に電池容量がチェックされ、液晶表示部にその結果を表示します。

点灯
電池容量は十分です
（約3秒後消灯します）。

点滅
新しい電池をご用意ください。
この状態でも撮影はできます。

のみ点滅
電池を交換してください。
シャッターは切れません。

- 電源を入れても何も表示されないときは、まず電池の向きが正しいかどうかを確認してください。それでも何も表示されないときは、電池を交換してください。
- このカメラは、電源を入れてから約8分以上何も操作をしないときは、節電のため、液晶表示が消灯し、レンズが自動的に収納されます。この状態でもズームボタンやシャッターボタンで撮影を再開することができます。
- お買い上げのときに入っている電池は、出荷時に入れたものですので、新品電池と比べて消耗が早くなることがあります。

フィルムを入れます

このカメラでは、新システムのフィルム（IX240カートリッジフィルム）を使用します。

使用状態マーク

新システムのフィルムは、使用状態を4つのマークでお知らせします。4つのうち白くなっているマークが、そのフィルムの状態です。

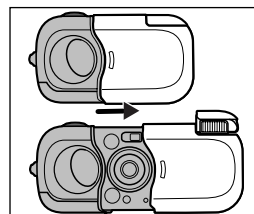
○：新品のフィルムです。

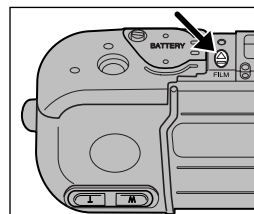
◗：途中まで撮影済みのフィルムです。

☒：全コマ撮影済みのフィルムです。

▯：現像済みのフィルムです。

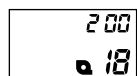
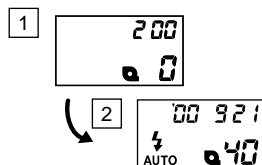
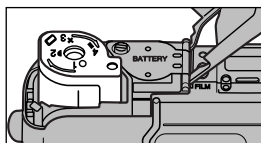
このカメラには、使用状態マークが○または◗のフィルムをお使いください。

● ◗（途中まで撮影済み）のマークのフィルムでも、他社製のカメラで巻き戻したものは使用しないでください。フィルムの状態が読み取れないことがあります。

1. スライドカバーを矢印の方向へゆっくりと、止まるまで開きます。

● カメラの電源が入ります。内蔵フラッシュが上がり、レンズがいったん少し前に出て、また収納されます。

2. カメラを上下逆向けにしてフィルム室開放ボタンを押します。

● レンズが前に出ている場合は、収納された後にフィルム室ふたが開きます。

● フィルム室が開いている間は液晶表示部にOPEnが現れ、が点滅します。

（次ページに続く）

3. フィルムを使用状態マークが上になるようにして入れます。

● フィルム室ふたを必要以上に押し開けないでください。

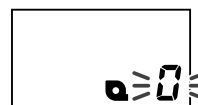
4. フィルム室ふたをカチッと音がするまできっちりと閉じます。

● ふたを閉めると、まず液晶表示部にフィルム感度等が現われます[1]。続いてフィルムが巻き上げられ、フィルムの撮影可能枚数等が表示されます[2]。

● D マーク（途中まで撮影済み）のフィルムを入れたときには、撮影されていないコマまで巻き上げられます。

200
18

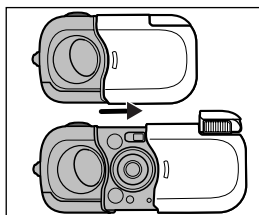
● フィルムが入っている場合、フィルムカウンターが0以外のときはフィルム室を開けることはできません（セーフティロック）。フィルム室開放ボタンを押して開けようとすると、押している間と指を離してから約2秒間、フィルム感度が液晶表示部に現れます。

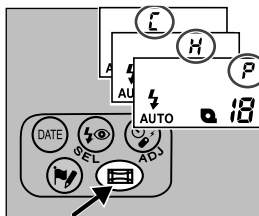
0

● 使用状態マークが ※（全コマ撮影済み）、□（現像済み）のフィルムをこのカメラに入れると、液晶表示部の 0 が点滅し、このカメラには使用できないフィルムであることをお知らせします（誤装填防止機能）。フィルムを取り出し、○（新品のフィルム）または D（途中まで撮影済み）のフィルムを入れてください。

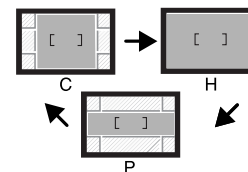
● 感度がISO25-3200の範囲外のフィルムや何か異常のあるフィルムを入れたときも左図の表示が現れます。

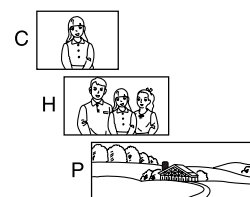
● 使用状態マークが □ のフィルムを、一度このカメラに入れてから取り出すと、マークは ※ に変わり、どのカメラでも全コマ撮影済みのフィルムとして扱われます。

● ○ や D のフィルムでも、ごくまれに新しいコマまで巻き上げが正しく行なわれない場合があります。このときも、左図の表示が現れます。フィルムをいったん取り出し、入れ直してください。それでも同じ表示が出る場合は、当社サービスセンターまたはサービスステーションにご連絡ください。

全自動で撮影しましょう

1. スライドカバーを矢印の方向へゆっくりと、止まるまで開きます。

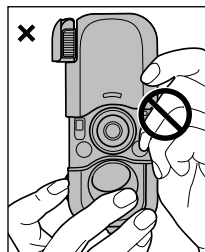
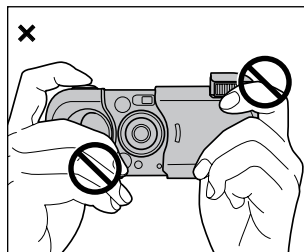
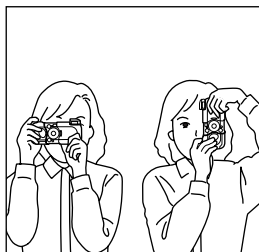
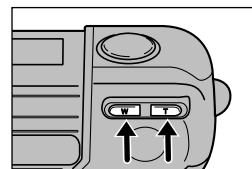
- カメラの電源が入ります。内蔵フラッシュが上がり、レンズがいったん少し前に出て、また収納されます。
- 液晶表示部にフィルム感度等が現れ、続いてフィルムの撮影可能枚数等の表示に変ります。

2. プリントタイプ切替ボタンを押し、プリントタイプ（C/H/P）を選びます。

- 液晶表示部にプリントタイプ表示が現れ、約2秒後、日付・時刻表示に変わります。

- 選んだプリントタイプに応じてファインダーが切り替わります。//// の内側の ▒ がプリントに写る部分です。
- プリントタイプは設定後、カメラの電源を切ってもそのまま保持されています。

基本撮影

- 各プリントタイプの標準的な仕上がりサイズは、Cタイプ 89㎜×127㎜、Hタイプ 89㎜×158㎜、Pタイプ 89㎜×254㎜です。

（次ページに続く）

カメラを構えるときは

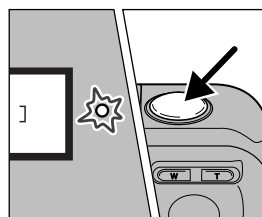
- **レンズやフラッシュ、測距窓、測光窓などカメラの前面に、指や髪の毛、ストラップがかからないようにしてください。**
- 写真がぶれないように、脇を閉め、両手でしっかりと構えてください。
- 縦位置で撮影するときは、フラッシュを上にして構えてください。

3. ファインダーをのぞきながら、ズームボタンで、撮る範囲や、撮りたいものの大きさを決めます。

- W（広角）のボタンを押すとより広い範囲のものが写り、T（望遠）のボタンを押すと、より大きく写ります。

4. ピントを合わせたいものに［　　］を重ねて、シャッターボタンを半押し* します。

- ファインダー上部に近距離補正マークが現れたときは、シャッターボタンを半押ししたままカメラを少し上にずらして撮影してください（31ページ参照）。

*シャッターボタンの半押し
シャッターボタンを軽く押すと、途中で少し止まるところがあります。この使用説明書では、そこまで押すことを「半押し」と呼んでいます。

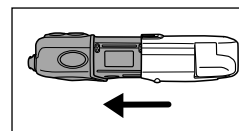
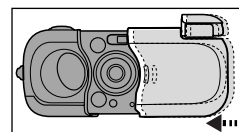
（次ページに続く）

5. ファインダー横の撮影OKランプ（緑ランプ）が点灯したら、そのままシャッターボタンを押し込みます。

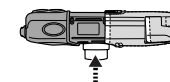
- 暗いときや、逆光のときはフラッシュが自動的に発光します。
- 撮影OKランプ（緑ランプ）が点灯しないときはフラッシュが充電中です。緑ランプが点灯するのを待ってから、撮影してください。

- 撮影OKランプ（緑ランプ）がすばやく点滅するときは、被写体が近すぎます。シャッターは切れません（30ページ参照）。
- 撮影時は、レンズ部分を持たないでください。撮影結果に悪影響を及ぼすことがあります。

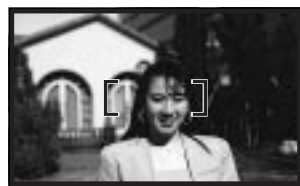
使用後は、スライドカバーを閉じて電源を切ります（次ページ参照）。

スライドカバーの閉じ方

レンズが前に出ているときはスライドカバーを勢いよく一気に閉じず、以下の要領で閉じてください。ズーム位置が最広角側のときは、レンズが収納されていますので、そのまま閉じることができます。

1. スライドカバーをカチッと止まる位置まで少しスライドさせます。

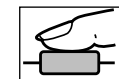
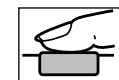
- レンズが収納されます。

2. レンズが完全に収納された後、スライドカバーを閉じてください。

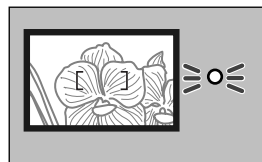
撮りたいものが画面中央にないときは

撮りたいもの（ピントを合わせたいもの）が画面の中央にないとき、そのまま撮影すると、左のように背景にピントの合った写真になってしまいます。こんなときは、撮りたいものに一時的にピントを合わせて固定し、その後構図を変えて撮影します。この方法は、オートフォーカスの苦手な被写体を撮りたいときにも使えます。

1. ピントを合わせたいものに［　　］を重ねます。

● オートフォーカスの苦手な被写体を撮りたいときは、撮りたいものとほぼ同じ距離で同じくらいの明るさの別のものに［　　］を重ねます。

2. そのままの状態でシャッターボタンを半押しします。

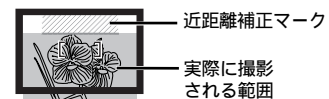
● 撮影OKランプ（緑ランプ）が点灯し、［　　］を重ねたものにピントが固定されます。

3. シャッターボタンを半押ししたまま撮りたい構図に変え、シャッターボタンをそのまま押し込みます。

近くのものを撮るときは

プリントタイプがHまたはCの場合、撮りたいものに40cmまで近づいて撮影できます。

● この距離より撮りたいものに近づき過ぎると、ピントが合わず、撮影OKランプ（緑ランプ）がすばやく点滅してお知らせします。シャッターは切れません。

● Pタイプの場合、ズームの位置（焦点距離）によってこの距離が変わります（W（広角、22mm）で47cm、T（望遠、66mm）で1.1m）。
● 撮りたいものに極端に近づき過ぎると、撮影OKランプ（緑ランプ）が点灯またはゆっくり点滅してシャッターが切れることがありますが、ピントは合いません。

近距離補正マークの使い方（C、Hタイプを選んだ場合に現れます。）

撮りたいものに、ある一定の距離より近づいて撮影するときは、ファインダーで見える範囲と実際に撮影される範囲にずれが生じます。このような場合、シャッターボタンを半押しした時に近距離補正マークが現れ、補正が必要なことをお知らせします。次ページの要領で撮影してください。

● 近距離補正マークが現れる距離はズームの位置（焦点距離）によって変わります。

（次ページに続く）

近距離補正マークの使い方（続き）

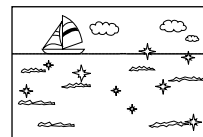
1. ピントを合わせたいものに［　］を重ねてシャッターボタンを半押しします。

● 近距離補正マークが現れます。

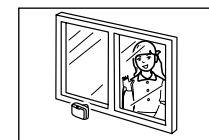
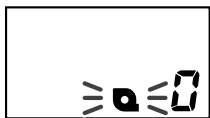
2. シャッターボタンを半押ししたまま、写したい範囲が斜線より下にくるよう、カメラを少し上にずらします。

3. 撮影します。

オートフォーカスの苦手な被写体

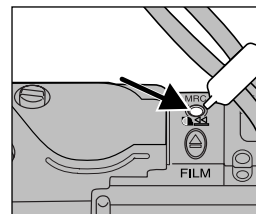
このカメラでは、以下のような撮影条件ではオートフォーカス機構が働きにくい場合があり、緑ランプが点灯またはゆっくり点滅してシャッターが切れますが、ピントが合わないことがあります。このようなときには、写したいものとほぼ同じ距離で同じくらいの明るさの別のものにフォーカスフレームを重ね、シャッターボタンを半押しし、その状態で写したいものに構図を合わせて撮影してください（28〜29ページ参照）。

● フォーカスフレーム周辺に非常に明るい光りや強い反射がある場合。
● 自動車のボディや水面など光を反射しやすいものを写すとき。
● 髪の毛など光を反射しにくいものを写すとき。
● ガラス越しに撮影するとき。
● 花火や炎など、実体のないものを写すとき。

フィルムを取り出します

1. 最後のコマまで撮り終えると、フィルムは自動的に巻き戻されます。

● レンズが出ている場合は、巻戻しが始まる直前にレンズが収納されます。

● 巻き戻し中は、フィルムカウンターの数字が順々に減っていきます。
● 液晶表示部のフィルムカウンターが 0 になり、■ が点滅したら、巻き戻しは終了です。
● 巻き戻し中でもスライドカバーを閉じることができます。

2. カメラを上下逆向けにしてフィルム室開放ボタンを押し、ふたを開けてフィルムを取り出します。

● フィルム室が開いている間は液晶表示部に OPEn が現れ、■ が点滅します。
● 取り出したフィルムの使用状態マークは ※ になっています。

フィルムを途中で巻き戻すには

ストラップについている小さい方の突起部分で、途中巻き戻しボタンを軽く押します。

● ボタンを強く押し込まないでください。故障の原因となります。
● 液晶表示部のフィルムカウンターが 0 になり、■ が点滅したら、フィルム室開放ボタンを押し、ふたを開けてフィルムを取り出します。
● 取り出したフィルムの使用状態マークは D になっています。

カートリッジ途中交換機能（MRC）

撮影の途中で巻き戻していったん取り出したフィルムを、またカメラに入れて続きから撮影することができます。当社のカートリッジ途中交換機能を備えたカメラどうしなら、一度取り出したフィルムを別のカメラに入れて撮影を続けることもできます。フィルム感度ごとや撮影のテーマごとにフィルムを使い分けたいとき、他の人のカメラを借りるときなどに便利です。

- カートリッジの途中交換は、ミノルタ製のカートリッジ途中交換機能を備えたカメラどうしでのみ行うことができます。使用状態マークが D のフィルムでも、他社製のカメラで巻き戻したものは使用しないでください。フィルム状態が読み取れないことがあります。
- 途中巻き戻しした D マークのフィルムを入れるときは、強い電波や磁界を発生する場所（作動中のスピーカー、パソコンのディスプレイ、携帯電話などの電気製品）から１m以上離れたところで行ってください。

途中巻き戻ししたカメラ		続きを撮影しようとするカメラ	
途中交換機能のあるカメラ	→	途中交換機能のあるカメラ	途中巻き戻ししたフィルムは D（途中まで撮影済み）になっています。続きから撮影できます。
途中交換機能のあるカメラ	→	途中交換機能のないカメラ	途中巻き戻ししたフィルムは D（途中まで撮影済み）になっていますが、いったん途中交換機能のないカメラにこのフィルムを入れると、※（全コマ撮影済み）になります。一度 ※ になると、途中交換機能のあるカメラでも、続きから撮影することはできません。
途中交換機能のないカメラ	→	途中交換機能のあるカメラ	途中巻き戻ししたフィルムは ※（全コマ撮影済み）になっています。途中交換機能のあるカメラにこのフィルムを入れても、続きから撮影することはできません。

現像・プリントに出すときは

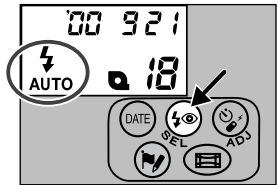
高品質なプリントを得るために、このカメラで撮影したフィルムを現像・プリントに出すときは、左図の「現像プリントサービス認定店」の認定マークを掲示してあるお店にお出しください。
現像プリントサービス認定店でのサービスについては、72ページをご覧ください。

焼き増しを注文するときにプリントタイプを変更できます

このカメラでは、どのプリントタイプで撮影しても、フィルム上には常にHタイプで像が記録されています。したがって、お店で焼き増しを注文する際に、撮影したときと違うプリントタイプを指定することもできます。
たとえば、Cタイプで撮影したものでも、HタイプやPタイプでプリントすることができます。

フラッシュ撮影

スライドカバーを開いて電源を入れると、
フラッシュは自動発光、または赤目軽減自動発光
となり、必要なときには自動的に発光します。

フラッシュモードの選択

フラッシュモード選択ボタンを押すたびに、下の順序でフラッシュモードが切り替わります。

● 自動発光と赤目軽減自動発光は、設定後、カメラの電源を切ってもそのまま保持されています。その他のフラッシュモードは自動発光または赤目軽減自動発光（前回撮影した方）に戻ります。

自動発光 ……必要時にはフラッシュが自動的に発光します。

赤目軽減自動発光 ……目が赤く写るのを和らげるため、撮影直前にフラッシュが2回発光します。→42ページへ

強制発光 ……フラッシュは必ず発光します。→43ページへ

発光禁止 ……フラッシュは発光しません。→44ページへ

夜景ポートレート ……夜景を背景にした人物撮影ができます。→45ページへ

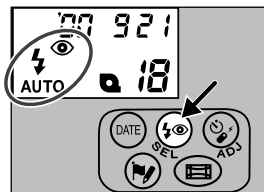
遠景・夜景 ……遠くのものや、夜景のみを撮影するときに使います。→47ページへ

フラッシュ光の届く距離

フラッシュ光の届く距離には限度があります。下の表を目安に、この範囲内で撮影してください。

ズーム位置（焦点距離）／フィルム感度	広角（22㎜）側	望遠（66㎜）側
ISO 100	0.4m～2.5m	0.4m～1.5m
ISO 200	0.4m～3.6m	0.4m～2.2m
ISO 400	0.4m～5.0m	0.4m～3.1m

フラッシュで目が赤く写るのをやわらげるには（赤目軽減自動発光）

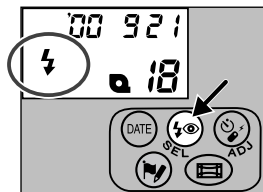
シャッターが切れる前に、小光量のフラッシュが2回発光して、暗いところで目が赤く写るのを目立たなくします。

1. フラッシュモード選択ボタンを押して、 を点灯させます。

2. シャッターボタンを押して撮影します。

● シャッターボタンを押してからシャッターが切れるまでの間（約1.5秒）、カメラを動かしたり写される人が動かないよう、注意してください。

● 赤目軽減自動発光は、設定後、カメラの電源を切っても、そのまま保持されています。フラッシュモード選択ボタンを押すと他のフラッシュモードに切り替えることができます。

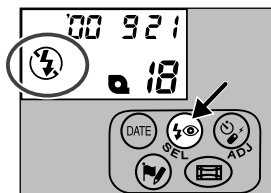
フラッシュを必ず発光させたいときは（強制発光）

明るい屋外で人物の顔に帽子の影ができているときや、蛍光灯のついた屋内で撮影するときなどは、フラッシュを発光させるとより美しい写真が撮れます。

1. フラッシュモード選択ボタンを押して、 を点灯させます。

2. シャッターボタンを押して撮影します。

● スライドカバーを閉じて電源を切ると、次に電源を入れたときは、自動発光または赤目軽減自動発光（前回撮影した方）に戻ります。

フラッシュを発光させたくないときは（発光禁止）

美術館や博物館などフラッシュの使用が禁止されているときは、フラッシュを発光させずに撮影します。

1. フラッシュモード選択ボタンを押して、⚡ を点灯させます。

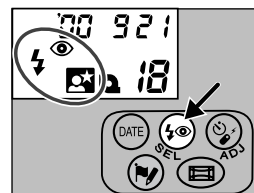
2. シャッターボタンを押して撮影します。

● 夕方の風景や街の夜景など、遠くの風景を撮影する場合は、47ページの「遠景・夜景」で、夜景を背景に人物撮影をする場合は、次ページの「夜景ポートレート」で撮影してください。

● スライドカバーを閉じて電源を切ると、次に電源を入れたときは、自動発光または赤目軽減自動発光（前回撮影した方）に戻ります。

暗いところではシャッター速度が遅くなり（最長約8秒）、写真がぶれやすくなります。撮影OKランプ（緑ランプ）がゆっくり点滅してお知らせしますので、三脚などでカメラを固定して撮影してください。

夜景を背景に人物撮影するときは（夜景ポートレート）

シャッター速度が遅くなり、フラッシュが発光します。人物も背景の夜景も両方写すことができます。

1. フラッシュモード選択ボタンを押して、⚡👁 を点灯させます。

● フラッシュは必ず発光します（強制発光）。また、シャッターが切れる前にフラッシュが数回発光します（赤目軽減発光）。

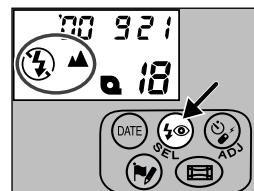
（次ページに続く）

2. 構図を決め、そのままシャッターボタンを押して撮影します。

- 人物のいない夜景を撮影するときは、次ページの「遠景・夜景」をおすすめします。
- スライドカバーを閉じて電源を切ると、次に電源を入れたときは、自動発光または赤目軽減自動発光（前回撮影した方）に戻ります。

シャッター速度が遅くなりますので（最長約1秒）、三脚などでカメラを固定して撮影してください。また、写される人にも声をかけて、動かないように気を付けてもらうことをおすすめします。

風景・夜景を撮影するときは（遠景・夜景）

風景や夜景を撮影するときなどに、ピントを遠くにあわせます。フラッシュは発光しません。またガラス越しの風景でもピントがきれいにあった写真が撮れます。

1. フラッシュモード選択ボタンを押して、⚡▲を点灯させます。

2. シャッターボタンを押して撮影します。

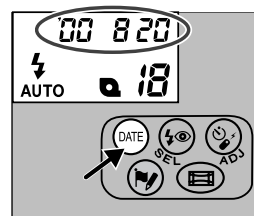
- スライドカバーを閉じて電源を切ると、次に電源を入れたときは、自動発光または赤目軽減自動発光（前回撮影した方）に戻ります。

暗いところではシャッター速度が遅くなり（最長約8秒）、写真がぶれやすくなります。撮影OKランプ（緑ランプ）がゆっくり点滅してお知らせしますので、三脚などでカメラを固定して撮影してください。

こんなこともできます

日付・時刻を入れましょう

日付や時刻をプリントの表裏両面に印字することができます。

● 現像・プリント取扱店によっては、表面の印字に対応していないところもあります。詳しくは取扱店にお問い合わせください。

カメラの電源を入れ、日付・時刻印字ボタン（DATE）を押して印字される内容を選びます。

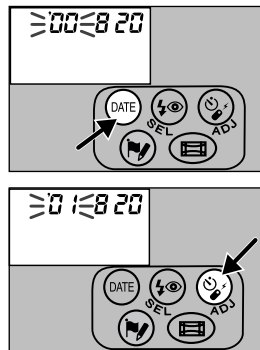
● 日付・時刻印字ボタン（DATE）を押すごとに、液晶表示部の表示が以下のように切り替わります。

'00 8 20 → 13:05 → - - - - - -
（年月日）（時分）（印字なし）

● - - - - - - が点灯しているときは、表面には何も入りませんが、裏面には年月日時分が印字されます。

● 日付・時刻や - - - - - - が点滅しているときは、印字されません。日付と時刻を設定してください（次ページ参照）。

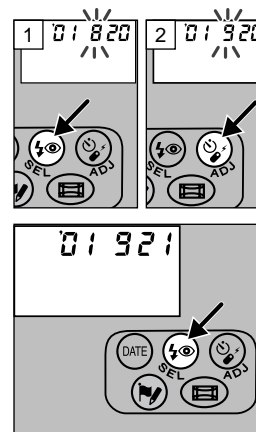
日付・時刻を入れましょう（日付・時刻の修正）

このカメラには2029年までの日付が記憶されています。撮影のたびに数値を設定する必要はありません。電池を交換した後や電池を入れ直した後など、数値の修正が必要な場合は、以下の手順で行なってください。

1. スライドカバーを開いてカメラの電源を入れます。

2. 日付・時刻印字ボタンを約2秒間押し続けます。

● 「年月日」が表示され、「年」の数字が点滅します。

3. アジャスト（数値設定）ボタンを押して、点滅している数値「年」を修正します。

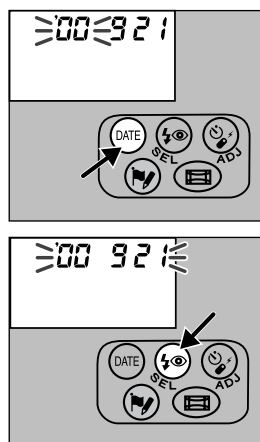
● 押し続けると、点滅箇所の数値が早送りされます。

4. 他にも修正個所（月、日、時、分）があるときはセレクト（修正位置選択）ボタンで修正個所を点滅させ 1、アジャストボタンで修正します 2。

● セレクトボタンを押すごとに、月→日→時→分の順で、点滅箇所が変わります。

5. 修正が終わったら、点滅している数字がなくなるまでセレクトボタンを何回か押します。

● 約5秒間液晶表示部に「年月日」が点灯します。この間にセレクトボタンを押すと「年」の数字が点滅し、設定の操作（ステップ 3.）に戻ることができます。

● 5秒を過ぎると、設定する前に使っていた印字表示（日付・時刻や - - - - - - ）が現れ、通常の撮影表示に戻ります。セレクトボタンを押すとフラッシュモードが変わります。

日付・時刻を入れましょう（年月日の並び変え）

「年月日」の順序を変えることができます。

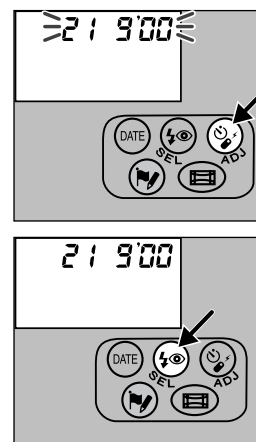
変更した並び順は電池を交換した後も変わりません。

1. スライドカバーを開いてカメラの電源を入れます。

2. 日付・時刻印字ボタンを約2秒間押し続けます。

● 「年月日」が表示され、「年」の数字が点滅します。

3. セレクト（修正位置選択）ボタンを約2秒間押し続けます。

● 「年月日」すべてが点滅します。

4. アジャスト（数値設定）ボタンを押して、年月日の並び順を選びます。

● ボタンを押すごとに、年月日の並び順が以下のように切り替わります。

5. 希望の並び順を選んだら、セレクトボタンを押します。

● 約5秒間液晶表示部に並び変えた「年月日」が点灯します。この間にセレクトボタンを押すと、「年」の数字が点滅し、日付・時刻の修正ができます（50ページ参照）。

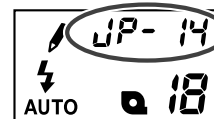
● 5秒を過ぎると設定する前に使っていた印字表示（並びかえた「年月日」、時刻や - - - - - - ）が現れ、通常の撮影表示に戻ります。セレクトボタンを押すとフラッシュモードが変わります。

タイトルを入れましょう

「タンジョウビ」、「アイラブユー」などのタイトルをプリントの裏に印字することができます。
タイトルには、各コマごとに設定できる「コマタイトル」と、フィルム1本分を通して同じタイトルが入る「全コマ共通タイトル」の2つがあります。この2つのタイトルは、1枚のプリントに一緒に印字することができます。

- 表面の印字については現像・プリント取扱店にお問い合わせください。
- 日本語（*JP*）以外の言語のタイトルについては、設定どおり印字されるかどうか、あらかじめ現像・プリント取扱店にお問い合わせください。
- 日本語（*JP*）およびアメリカ英語（*US*）以外の言語のタイトルリストが必要な場合は、お近くの当社サービスセンター・サービスステーション（裏面に記載）にお問い合わせください。

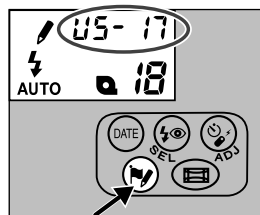
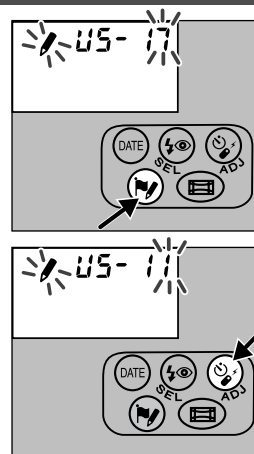
タイトルを印字するには、タイトルリストの中から印字したいタイトルを選んで、あらかじめカメラに登録しておく必要があります。タイトルは3つ登録できます。

- カメラを購入されたときは、*US-17* (Happy Birthday)、*US-14* (I Love You)、*US-02* (Vacation) の3つが登録されています。

タイトルは、「JP-14」のように、言語を表す略語（この場合は日本語を表わす（*JP*）と、タイトルを表す2ケタの数字（14）との組み合わせで表示されます。詳しくは付属の「タイトルリスト」をご覧ください。
が点灯している状態で撮影を行えば、タイトルが印字されます。

タイトルを入れましょう（タイトルの登録と変更）

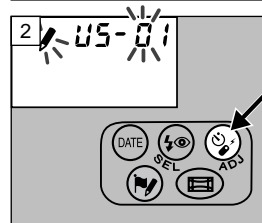
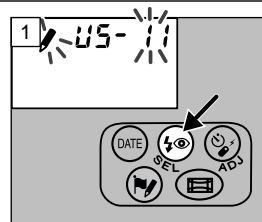
登録されているタイトルを変更するには、次のようにします。
（例）*US-17*（Happy Birthday）を、*JP-01*（タンジョウビ）に変更する場合

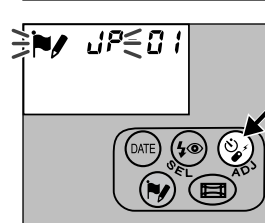
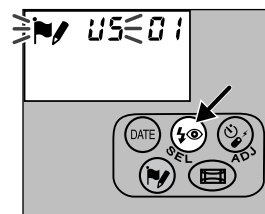
1. スライドカバーを開いてカメラの電源を入れます。

2. 付属の「タイトルリスト」から、新たに登録したいタイトルの略語と数字（*JP-01*）を選びます。

3. タイトル選択ボタンを押して、変更したいタイトル（*US-17*）を表示させます。

4. タイトル選択ボタンを約2秒間押し続けます。

● タイトル選択番号の一の位の数字（7）が点滅します。

5. アジャスト（数値設定）ボタンを押して、一の位の数字を変更します（*7*→*1*）。

● 押し続けると連続して変わります。

（次ページに続く）

6. セレクト（修正位置選択）ボタンで十の位の数字（*1*）を点滅させ 1、アジャストボタンで希望の数値にします（*1*→*0*）2。

7. セレクトボタンを押します。言語の略語が点滅します（*US*）。

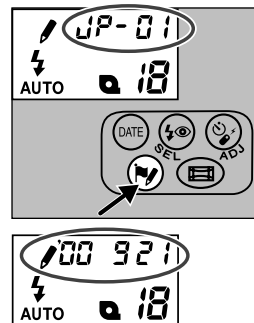
8. アジャストボタンを押して、希望の言語を表示させます（*US*→*JP*）。

（次ページに続く）

9. タイトル選択ボタン、またはセレクトボタンを押して、すべての表示を（点滅でなく）点灯させます。

- タイトルの登録が完了し、シャッターボタンを押すと変更したタイトルが印字される状態になっています。
- 約5秒間液晶表示部にタイトル（*JP-01*）が点灯します。この間にセレクトボタンを押すと表示が点滅にかわり、設定の操作（ステップ 5.）に戻ることができます。
- 5秒を過ぎるとその他の表示が現れます。セレクトボタンを押すとフラッシュモードが変わります。
- 登録されているタイトルの変更はいつでもできます。

タイトルを入れましょう 〜 コマタイトル

ひとコマごとにタイトルを設定する方法です。

1. 撮影する前に、タイトル選択ボタンを押して、印字したいタイトルを選びます。

- 液晶表示部に と、タイトルの言語と数字が現れます。
- タイトル選択ボタンを押すごとに、登録されている3個のタイトルが以下のように順に現れます。

JP-01 → US-02 → US-14 → 00 921
（タイトル印字なし）

- タイトル選択ボタン以外を操作すると、選んだタイトルの言語と数字の表示が、日付・時刻や ------ に変わります（ は残り、タイトルが印字されることを示します）。

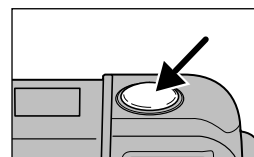
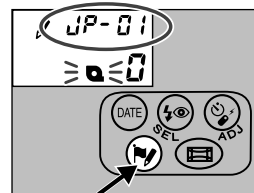
2. そのまま、シャッターボタンを押して撮影します。

- 撮影後 は消え、コマタイトルは解除されます。

タイトルを入れましょう 〜 全コマ共通タイトル

フィルム1本のすべてのコマに同じタイトルが入ります。フィルムを最後まで（または途中まで）撮影して巻き戻してから、タイトルを選んでください。

- 全コマ共通タイトルは、1本のフィルムにつき1度だけ設定できます。いったん設定したタイトルの取り消しややり直しはカメラではできません。現像・プリント取扱店にご相談ください。
- D（途中まで撮影済み）のマークのついたフィルムを使った場合は、巻き戻し後も全コマ共通タイトルを入れることはできません。また、最初に巻き戻したときに全コマ共通タイトルを入れていた場合は、そのフィルムの全コマにそのタイトルが入ります。

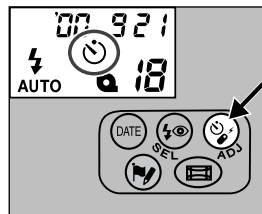
1. フィルムの巻き戻しが終わり、液晶表示部に 0 が現われて が点滅するのを待ちます。

2. が点滅したら、タイトル選択ボタンを押して印字したいタイトルを選びます。
- タイトル選択ボタンを押すごとに、登録されている3個のタイトルが以下のように順に現れます。

JP-01 → US-02 → US-14 → 表示なし

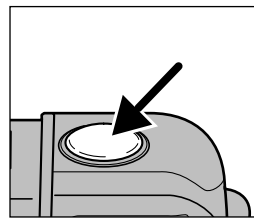
3. シャッターボタンを押し込みます。
- タイトルの情報がフィルムに書き込まれます。

4. 再び が点滅したら、フィルム室を開けてフィルムを取り出します。

セルフタイマー撮影

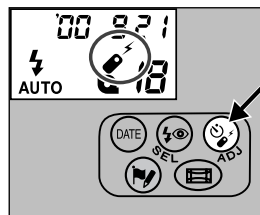
撮影者も写真に入ることができますので、全員での記念写真などに便利です。

1. カメラを三脚などに固定してから、セルフタイマー／リモコンボタンを押して、⏲を点灯させます。

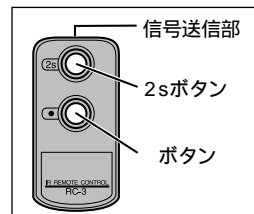
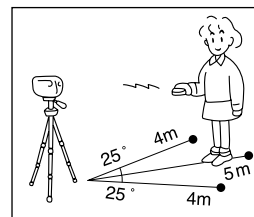
2. 撮りたいものに［　］を重ねます。

- 撮りたいものが画面中央にないときは、まず、撮りたいものに［　］を重ねてシャッターボタンを半押しし、そのまま撮りたい構図に変え（28ページ参照）、次ページのステップ 3. に従ってシャッターボタンを押し込みます。

3. シャッターボタンを押します。

- カメラ前面のセルフタイマー／リモコン作動表示ランプと液晶表示部の ⏲ が点滅し始め、約10秒後にシャッターが切れます。
- 撮影直前には作動表示ランプがすばやく点滅、その後点灯して、撮影のタイミングをお知らせします。
- カメラの正面に立ってシャッターボタンを押さないでください。
- 撮影後は通常撮影に戻ります。
- セルフタイマー撮影を中止したいときは、シャッターが切れる前にセルフタイマー／リモコンボタンを押すか、スライドカバーを閉じて電源を切ってください。

リモコン撮影

付属のリモコン（IRリモコンRC-3)を使用すると、カメラから離れてシャッターを切ることができます。

1. カメラを三脚などに固定してから、セルフタイマー／リモコンボタンを押して、を点灯させます。

2. 撮りたいものに［　］を重ねて、構図を決めます。

3. 図の範囲内で、リモコンの信号送信部をカメラに向けて、2sボタンか●ボタンを押します。

- 2sボタンを押すと、セルフタイマー／リモコン作動表示ランプが数回点滅して、約2秒後にシャッターが切れます。●ボタンを押した場合は1回だけ点灯して、すぐにシャッターが切れます。
- スライドカバーを閉じて電源を切ると、通常撮影に戻ります。
- 約8分以上カメラやリモコンを操作しないと、節電のため、液晶表示が消灯し、レンズが自動的に収納されます。
- 逆光時や蛍光灯の近く、極端に明るい場所では、リモコン撮影の可能な距離が短くなったり、リモコン撮影ができないことがあります。

（次ページに続く）

撮りたいものが画面中央にないときは
（オートフォーカスの苦手な被写体を撮りたいとき）

リモコン撮影で撮りたいものが画面中央の［　　］にないときは、以下の手順で撮影してください。この方法は、オートフォーカスの苦手な被写体をリモコン撮影で撮りたいときにも使えます。

1. リモコン撮影モードにします。

2. 撮りたいもの（または、撮りたいものと同じ距離で同じくらいの明るさの別のもの）に［　　］を重ねて、シャッターボタンを半押しします。

- 撮影OKランプ（緑ランプ）が点灯またはゆっくり点滅し、［　　］を重ねたものにピントが固定されます。
- シャッターボタンの半押しで何度でもピントを合わせ直すことができます。

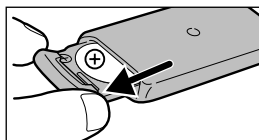
3. シャッターボタンから指を離して、撮りたい構図に変えます。

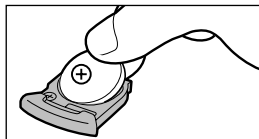
4. リモコンの2sボタンか●ボタンを押して撮影します。

- 撮影後も緑ランプは点灯したままで、ピント位置が固定されていることをお知らせします。同じ距離のものなら続けて撮影できます。
- ピント位置の固定をやめたいときは、セルフタイマー/リモコンボタンでリモコン撮影モードを再設定するか、ズームレバーを操作してください。

（次ページに続く）

リモコン用電池の交換

リモコン用の電池には、リチウム電池（CR2032）１個を使用しています。リモコンのボタンを押してもシャッターが切れなくなったら、電池を交換してください。電池の寿命は約10年です（お買い上げのときの電池はそれより消耗が早くなることがあります）。

1. リモコンを裏向けて、電池室を矢印の方向へ引き出します。

2. 古い電池を取り出し、新しい電池を＋側を上にして入れます。

3. 電池室を元どおり確実にはめ込みます。

コイン型電池は、幼児の手の届かないところへ置いてください。万一飲み込んだ場合は、ただちに医師にご相談ください。

付 録

プリント時のサービスについて

左の認定店マークを掲示しているお店に現像・プリントを依頼されますと、以下のサービスを受けることができます。

①プリントタイプ切り替え（C / H / P）に対応します。
撮影時にお客様の設定されたプリントタイプでプリントします。

②日付やタイトルを印字します。
日付や時刻を写真の裏面または両面に、お客様が設定されたタイトルを写真の裏面に印字してお返しします。

③プリント画像を自動で補正します。
フィルムに自動的に記録される磁気情報をもとにして、最適な画像が得られるようプリント時に自動で補正します。

④フィルムをカートリッジ内に巻き取ってお返しします。
現像済みのフィルムは、カートリッジ内に巻き取られた状態でお客様にお返しします。
※現像済みフィルムのカートリッジの使用状態マークは□になります。

⑤インデックスプリントをお渡しします。
1本のフィルムに記録されているすべての写真を、まとめて1枚にプリントし、カートリッジと一緒にお返しします。

これらの5つのサービスは、それぞれお客様のご要望に応じて変更することができます。詳しくは、お店の方にお問い合わせください。

焼き増しを注文するときにプリントタイプを変更できます

このカメラでは、どのプリントタイプで撮影しても、フィルム上には常にHタイプで像が記録されています。したがって、お店で焼き増しを注文する際に、撮影したときと違うプリントタイプを指定することもできます。
たとえば、Cタイプで撮影したものでも、HタイプやPタイプでプリントすることができます。

使用温度について

- このカメラの使用温度範囲は−10 ～ 40℃です。
- 直射日光下の車内など、極度の高温下にカメラを放置しないでください。
- 液晶表示は、低温下で反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻せば正常に作動します。
- 湿度の高いところにカメラを放置しないでください。
- カメラに急激な温度変化を与えると内部に水滴を生じる危険性があります。スキー場のような寒い屋外から暖かい室内に持ち込む場合は、寒い屋外でカメラをビニール袋に入れ、袋の中の空気を絞り出して密閉します。その後室内に持ち込み、周囲の温度になじませてからカメラを取り出してください。

- 電池の性能は、低温下では低下します。寒いところでご使用になるときは、カメラを保温しながら撮影してください。海外旅行や寒いところでは、予備の電池を用意されることをおすすめします。なお、低温のために性能が低下した電池でも、常温に戻せば性能は回復します。

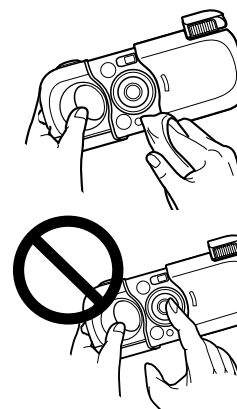
フィルムの取り扱いについて

- 新システムのフィルムでは磁気情報を使用していますので、フィルムを磁石に近づけたり、強い磁界の発生しているところ（テレビ受像機やスピーカーの上など）に置かないでください。磁気情報が失われて、新システムの性能を十分に発揮できなくなることがあります。

その他の注意

- このカメラは防水設計にはなっていません。海辺等で使用されるときは、水や砂がかからないよう特に注意してください。水、砂、ホコリ、塩分等がカメラに残っていると、故障の原因になります。
- 飛行機をご利用の際は、未現像フィルムやフィルムの入ったカメラは、機内持ち込みされることをおすすめします。預け入れ荷物に入れると、場合によってはX線検査でフィルムが感光する恐れがあります。

手入れのしかた

- カメラボディを清掃するときは、柔らかいきれいな布で軽くふいてください。砂がついたときは、こするとカメラに傷をつけますので、ブロアーで軽く吹き飛ばしてください。
- 測距窓が汚れているとオートフォーカスが正しく動作しないことがあります。このときは、乾いた柔らかい布で測距窓の汚れをふき取ってください。
- レンズ面を清掃するときは、ブロアブラシでホコリ等を取り除いてください。汚れがひどい場合は、柔らかい布やレンズティッシュにレンズクリーナーをしみ込ませ、軽くふいてください。
- シンナーやベンジンなどの有機溶剤を含むクリーナーは絶対に使わないでください。
- レンズ面に直接指で触れないでください。

保管のしかた

保管するときは、涼しく、乾燥していて、風通しのよい、ホコリや化学薬品のないところに保管してください。長期間の保存には、密閉した容器に乾燥剤と一緒に入れるとより安全です。

- 防虫剤の入ったタンスなどに入れないでください。
- 保管中も時々電源を入れて、空シャッターを切る（フィルムを入れないでシャッターを切る）ようにしてください。また、使用前には整備点検されることをおすすめします。

海外旅行や結婚式など大切な撮影のときは

- 前もって作動の確認、またはテスト撮影をしてからご使用ください。
- 万一、このカメラを使用中に、撮影できなかったり、不具合が生じた場合の補償についてはご容赦ください。

アフターサービスについて

- 本製品の補修用性能部品は、生産終了後7年間を目安に保有しています。
- アフターサービスについては、「アフターサービスのご案内」に詳しく記載していますので、そちらをご覧ください。

万一、不具合が生じたときは

- お問い合わせの際に、カメラの機種名と現象をお伝えください。
- 故障の際は、フィルムが取り出せないことがあります。無理に取り出そうとせずに、フィルムを入れたまま、カメラをお買い上げ店またはお近くの当社サービスセンター・サービスステーションにお持ちください。フィルムを取り出した後で不具合が分かった場合は、そのフィルムも一緒にお持ちください。

こんなときは

症状	原因	対策	ページ
電源を入れても液晶表示部に何も出ない	電池の入れ方が間違っている	電池を正しく入れ直す	16
シャッターが切れない	フラッシュが充電中	緑ランプが点灯するまで待つ	26・11
	撮りたいものに近づき過ぎている（緑ランプが点滅している）	緑ランプが点灯する距離まで離れて撮影する（HまたはCタイプで40cm）	30・11
	フラッシュを指で押し込んでいる	フラッシュに指をかけない	24
	撮影済みのフィルムが入っている	フィルム室開放ボタンで使用済みのフィルムを取り出す	34

症状	原因	対策	ページ
写真がブレている	暗い所でフラッシュを使わなかったり、夜景ポートレートで撮影したので、手ブレをおこした	シャッター速度が遅くなるので三脚を使用する	44 - 47
写真がボケている	撮影時、測距窓に指がかかっていた	測距窓に指などをかけない	24
	被写体が[ ]に入っていなかった	ピントを合わせたい物を正しく[ ]に入れて撮影する	25・28 64・68
	撮りたい物に極端に近づいたので、緑ランプが点灯しシャッターが切れたが、ピントが合わなかった	ピントが合う距離まで離れて撮影する（HまたはCタイプで40cm）。	30・11

症状	原因	対策	
フラッシュが光らない	自動発光では、場面が十分明るいとフラッシュは光らない	必要時、強制発光モードを選択する	43
フラッシュを使用したのに写真が暗い	フラッシュ光の届かない距離で撮影した	フラッシュ光の届く距離内で撮影する	41
	フラッシュの前に指をかけていた	撮影時はフラッシュの前に指などをかけない	24
フィルム室が開かない	フィルムを巻き戻していない	最後まで撮影するか、途中巻き戻しボタンでフィルムを巻き戻す	35
日付印字がない	電池交換後、日付を設定していなかった	日付・時刻を再設定する	49 - 53

症状	原因	対策	
フィルムを入れたあと、液晶表示部に0が点滅する	使用不可のフィルム（マークが ╳、▯ や、感度範囲外）を入れた	使用できるフィルムを入れ直す	21・18
電池容量が十分あるのにカメラが動かなかったり、液晶表示部が全て点滅する	電池を一度取り出し、再度入れてから、カメラの電源を入れ直してください。それでも正常動作に戻らない場合、また何度も繰り返して同じ状態になるときは、故障ですので、お近くの当社サービスセンターまたはサービスステーションにお問い合わせください。		—

主な性能

カメラタイプ	IX240レンズシャッターカメラ
レンズ	ミノルタレンズ22-66㎜/F5.9-9.3 （35㎜フィルム換算で約27.5-82.5㎜）
測光方式	2分割測光
シャッター速度	8～1/500秒
露出制御範囲（ISO200）	EV4～17
使用可能フィルム感度	DXコードにより自動設定（ISO 25～3200）
ファインダー倍率	0.32～0.88倍
ファインダー視度	－1ディオプトリー
視野率（Hタイプ）	86%（3.0mの被写体に対して）
フラッシュ充電時間	約0.6～7.0秒

電源	カメラ本体：3Vリチウム電池CR2×1個 リモコン用：リチウム電池CR2032×1個
撮影可能本数	約10本（新品電池で電池消耗までに撮影できる本数。 25枚撮りフィルム、フラッシュ50%使用）
大きさ	カメラ本体：102（幅）×58（高さ）×29.5（奥行）㎜ リモコン：31.5（幅）×66（高さ）×6（厚さ）㎜
重さ	カメラ本体：160g（電池別） リモコン：12g（リモコン用電池含む）

●本書に記載の性能は当社試験条件によります。
●本書に記載の性能および外観は、都合により予告なく変更することがあります。

ボディ底面のこのマーク（CEマーク）は、本製品が電波障害に関するEU（欧州連合）の要求事項に適合していることを示すものです。CEとはフランス語の Conformité Européenne**（ヨーロッパ認定）の頭文字です。**